

平成24年度第1回市長定例記者会見

日時：平成24年4月27日（金）午前10時

場所：市役所3号棟第3会議室

【出席者】

市：市長、企画部長、広聴担当者

報道機関：朝日新聞社、岩手日報社、河北新報社、共同通信社、テレビ岩手、東海新報社、毎日新聞社（50音順）

1 開会（企画部長）

ゴールデンウィークを控えて、4月の定例記者会見を行います。まずは市長からごあいさつを申し上げます。

2 市長あいさつ

皆様おはようございます。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。日ごろからメディアの方々には、お世話になっております。

間もなくゴールデンウィークを迎えることになり、皆さんにお伝えしたいことがいくつかございまして、お集まりいただきました。

昨日も、防災メモリアル公園を誘致するというので、「実現する会」を開催したところです。これは、平成25年度の概算要求に関わってきますが、国営防災メモリアル公園を誘致したいということで、5月6月にかけて、市民を挙げて盛り上げていきたいと思っております。

3 会見項目の説明

今日はほとんどが5月の行事予定ということで、お話をさせていただきます。

それでは、会見資料に沿ってお話しさせていただきます。5月の行事予定ですが、1日には消防団の皆さんの死亡叙勲授与式が行われます。授与する人数は34名ですが、消防団員は全体で51名が亡くなったということで、その違いは出動していたか、していないかで、消防団活動をしていた時に被災した方々が対象になっています。

叙勲の授与の際は、もちろん私から授与させていただくということでもあります。

3日から5日にかけて、高田松原・一本松作品展覧会を行います。3日にセレモニーを行います。資料に復興記念貨幣の写真がありますが、国営防災メモリアル公園を誘致するためのイベントで、主催は国営防災メモリアル公園を陸前高田市に誘致する会、共催は彩光会、場所は市役所3号棟の会議室です。展示させていただくものは、復興記念貨幣などですが、この貨幣は復興債を1,000万円以上購入すると金貨1枚を贈呈し、100万円以上購入すると銀貨1枚を贈呈するというものです。造幣局からレプリカをお借りし、合わせて、高田松原の奇跡の一本松のDNAを持つタエル君をお借りすることになりました。その他、絵画、写真、これまで一本松に関していろいろ寄せられたものを、来

場者の方々にお見せするものです。5日土曜日ですが、気仙大工左官伝承館20周年記念行事が伝承館で行われます。主催は箱根振興会です。この日は、10時から千昌夫、新沼謙治ジョイントコンサート「絆」も行われ、高田小学校で、これにつきましても、メモリアル公園の誘致と絡めた形で、誘致する会の共催で行います。同日、私は東京に行きまして、石巻市長、山田町の副町長さんとも一緒になると思いますが、子どもたちが復興庁にまちづくりの要望を出しています。子どもたちの要望に防災メモリアル公園の誘致を含めておりまして、平野大臣への要望を行う予定です。以前は、仙台でもイベントが行われておりますが、今度は東京に出席するものです。

また、連休明けの7日には、JDCの学び基金贈呈式が午前11時から行われることになっております。

12日には、アンパンマンショーが高田小学校で行われます。やなせたかしさんが陸前高田を応援しており、さきほど申し上げましたタエル君も、やなせさんが命名したものです。やなせさんのご厚意で制作された「陸前高田の松の木」の歌と踊りを披露することになっております。出席されるのは、歌手の大和田さんのほか、子どもたちにも踊ってもらいます。また、女性会にも踊りを覚えてもらおうとしております。

13日には氷上山の山開きが行われ、氷上神社で神事を行った後に登山口から出発して、さらに、30日にはチャレンジデーが行われます。通常であれば他の自治体と対戦するわけですが、この状況ですので、対戦という形はとらず、仮設住宅に入居されている方々の運動不足解消などを目的として、元気を取り戻そうという体育協会の意向です。詳細につきましては、5月15日号の広報りくぜんたかたでお知らせします。

また、この資料にはありませんが、5月14日に臨時議会を予定しております。内容については、平成23年度の補正予算の最後の専決処分で、議会で説明しておりますが、精算の部分について8件の案件があります。財産の取得について、消防団員への個別受信機の取得、損害賠償の和解が2件、土地区画整理事業の奈々切大石地区の施行条例の一部を改正する条例は、市役所の位置を改正するもので、専決処分がほとんどになります。

以上で、私からの説明を終わります。

(企画部長)

市長からご説明申し上げましたが、ご質問等があればお願いします。

(記者)

チャレンジデーには市長も参加されますか。

(企画部長)

日程の調整が必要ですが、高田高校第二グラウンドの仮設住宅でチャレンジデーの開会式を行う予定です。

(市長)

例年であれば、開会式に市長が出席しますが、まだ日程がきまっております。

(企画部長)

ほかに行事の関係で質問はございませんか。

<質問なし>

(企画部長)

行事に関わらず何かございますか。

(記者)

先日からホームページでメッセージを発信していますが、どういうねらいがありますか。

(市長)

この間、いろいろな方々が陸前高田市を訪れていますが、よく聞かれるのが「自分の友達で被災地に行きたいという人がいて、行っていいのか悪いのか、ボランティアは体力的に厳しいので、何ができるのか」というものです。武雄市から派遣された古賀さんの意見を聞いて製作しました。中小機構の支援をうけて、店舗が復興していますが、ジュース1本でも、お昼ご飯でも、食べていただくことが、支援につながります。3.11を過ぎて全国的に報道機関の来訪が少なくなりました。風化を防ぐために、全国の方々に来ていただき、ご友人等に広めていただくという意味が込められています。

(記者)

今後も続けていきますか。

(市長)

この間、世界の皆さんからもご支援を受けていますが、ビデオメッセージやDVDの制作も相談しています。地域の産品をどう売っていくか、PRしていくか、そういったことは、武雄市さんも先進地なので勉強して、市民の励みになるようなことを行政としてやっていきたいと考えています。

(記者)

情報発信が必要ということですが、被災地で早急に取り組まなければならないことは何でしょうか。

(市長)

宿泊施設がないということで、旧矢作小学校が7月にオープン予定です。旅館業法等に抵触しないように、寝袋を持ってきていただくとか、どのタイミングでオープンするか検討中で、できるだけ早くしたいと考えております。市内の道路も傷んでいて、夜間道を歩いていて、道路で足をくじいたケース等があり、建設課でも、担当の職員を1人張り付けて、直せる所を直していくということになっております。せつかく、陸前高田市を訪れたのに、お互いに面白くない思いをしないように、手直しをしていきたいと考えております。

課題はいっぱいありますが、来ていただいた人が全て満足して帰られるとは思っていませんが、最大限の努力をしていきたいと考えております。

(記者)

昨日、前田国交相が大船渡市に来ましたが、鉄道の復旧は時間がかかるので、BRTも含めて工夫したほうがいいのではないかと、気仙沼線はBRTということで、説明がありましたが、JR側から市にどのような説明がありましたか。

(市長)

気仙沼線のイメージのCGは拝見しましたが、本市については、説明はありません。JRは鉄道の会社ですが、BRTが有効であれば、もう少し具体的なものを提示していただかないと、市民に説明ができません。市民と共通の認識を深めるために、何らかの提案をいただきたいというところです。

(記者)

具体的な提案はないということですか。

(市長)

具体的にはありません。鉄道をとということであれば、陸前矢作駅まではせめて鉄路で、少し直せばなんとかなります。そこから先はBRTだとしても、部分的に分けて考えればいいのに、そこがぼかされてしまいます。こういうやり方のほうが、早く復旧できてコストも安いと考えています。BRTの場合、線路敷を道路にするので、陸前矢作駅までは鉄路にし、そこから先を道路という考え方がいいと思います。

(記者)

大船渡市や関係する自治体との歩調を合わせるという動きはありませんか。

(市長)

これからですが、この間山田線と大船渡線について協議しましたが、山田線と大船渡線を分けて、大船渡線は宮城県も絡んできますから、勝手に岩手県サイドで進めるわけにもいきませんので、これから宮城県サイドに声を掛けていきます。

(記者)

防災メモリアル公園の誘致について、手ごたえはいかがでしょうか。

(記者)

メモリアル公園の話ですが、福島、宮城、岩手の3県の中でということですが、直接会議に出たわけではありませんが、福島県は場所の自治体がない、宮城県は手を挙げているところが多く、まとまらない。岩手県は達増知事が陸前高田市にとおっしゃっていますが、国交省サイド、財務省サイドではまだリアクションがありません。市民が一丸となって誘

致実現に向けて運動していかなければならないと考えております。

(企画部長)

ほかに質問はございませんか。

<質問なし>

(企画部長)

それでは、これで定例記者会見を終わります。ありがとうございました。

終了 午前10時25分